

# 今、求められる防災教育

## ～学校・家庭・地域のつながりをつくる～

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 地域・団体連携協働部会 防災教育プロジェクト

東京都教育委員会は、子供たちの教育と、地域や企業・NPO等とのネットワークづくりを目指して「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」を設置し、多様な教育プログラムを小中高校の授業や、学校外の教育活動で実施する橋渡しをしています。この活動のテーマの一つに、防災教育があります。

震災が起こってからでは遅い、それがこれまでの震災からの教訓です。防災について考え、体験し、学ぶ場をできるだけ日常生活の中につくること、そして繰り返し体験し、いざという時に行動できることを目的として、防災教育にかかわる団体と一緒に、防災教育プロジェクトとして、体験型の防災教育プログラムを実施してきました。

このパンフレットでは、協力団体の防災教育プログラムを紹介しています。プログラムの内容や、体験コーナーの進め方等については、地域教育推進ネットワーク東京都協議会のホームページで紹介している「防災教育に関する取組」をご覧ください。



ネットワーク 東京都 防災教育 で検索

### ■防災教育プロジェクト 協力団体■

災害救援ボランティア推進委員会、NPO法人プラス・アーツ、NPO法人コドモ・ワカモノまちing、NPO法人日本トイレ研究所

※ホームページでは、他にもご協力いただいた防災体験学習施設や教材等も紹介しています。

## 子供たちの「いのち」を守る

### そのために、今、できることを

首都直下地震が懸念される中、平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災等、過去の地震の教訓から児童生徒の「いのち」を守る防災教育が求められています。

岩手県釜石市立釜石東中学校の取組の最大の特徴は、学校・家庭・地域のつながりにありました。津波からの避難行動は、地域住民や隣接する小学校と連携して、平時から行っていた訓練の成果でした。教員の熱意と綿密な授業計画、学校独自の「EASTレスキュー」というボランティア教育プログラムが生徒のモチベーションを高めました。また、プログラムを学んだ生徒が課題を家庭に持ち帰り、家族とともに考えるという取組が、児童生徒だけではなく、家族の「いのち」を守ることにもつながっています。

「釜石の奇跡」と呼ばれるこの行動は、奇跡や偶然ではなく、教育の成果でした。中学生たちが命を守ることができたのは、彼ら自身の行動もさることながら、その行動につなげるべく教育的な環境を整えた学校・家庭・地域の協力があってこそのことです。

地域住民、学校関係者、そして保護者も協力して、子供たちの「いのち」を守るためにできることに、ぜひ取り組んでいただければ幸いです。

災害救援ボランティア推進委員会 宮崎 賢哉  
(平成22年、23年に釜石東中学校防災教育実践を支援)



写真:撮影 前田耕作氏 提供 神戸大学附属図書館 震災文庫

## 阪神・淡路大震災から学ぶ

首都圏での防災対策では、今一度、阪神・淡路大震災から学ぶことが必要です。都市型災害の特徴である家屋倒壊、家具転倒、大火災からどのように身を守るかは、重要な課題になります。

平成27年は、阪神・淡路大震災から20年目になります。大震災を知らない子供たちと一緒に、改めて大人も学ぶ機会をつくりたいものです。

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 地域・団体連携協働部会 防災教育プロジェクト  
事務局 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課

★「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」は、東京都教育委員会が、子供たちの教育活動に企業、大学、NPO等の専門的な教育力を効果的に導入するためのネットワークづくりを目指し、平成17年に設立しました。